



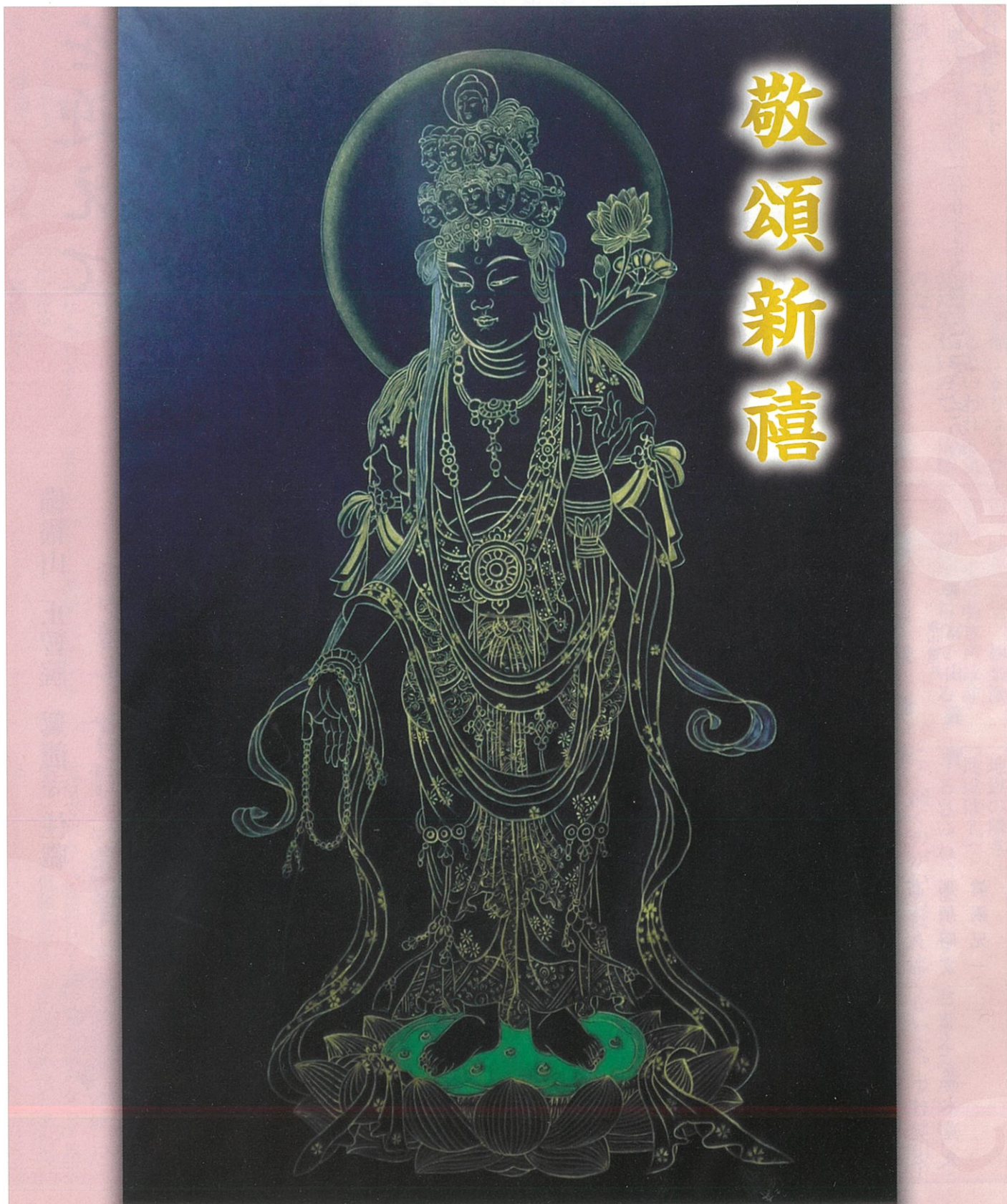
駕龍寺定紋

題字 / 弘法大師



高野山真言宗
備福山正智院 駕龍寺

住所 〒710-0042
岡山県倉敷市二日市600
電話 086-421-5631
発行人 富山義賢
ホームページ <http://www.karyuji.jp/>



紺地金泥 十一面観音像 富山奈緒美 写

新年を迎えて

新年おめでとうございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

天皇陛下 皇后陛下におかせられましたは、常に国民を思召されて頂いていることは国民等しく感激する処であり、聖寿の万歳と皇室の弥栄、我が国の悠久なる発展を御本尊ならびに弘法大師御宝前にお祈り申し上げます。

いつの時代でも、またいかなる事があつても、わが国では神仏を尊び、先祖のお墓参りを欠かさずに大切に一年を過ごして参りました。神社に行つては、いかなる神さまを問わず拍手を打つて心を清らかにし、お寺を訪れば宗旨宗派を問うことなく仏前にぬかずいて無事を祈り、四季の節目にはお墓参りをして、亡き人々やご先祖さまに近況報告をしながら冥福を祈るのです。こうした広々としたおだやかな、しかも確かに手ごたえのある精神生活は、世界にも類をみないもので、私はこれを「日本の美風」と言つてよからうと思つております。

お正月に限らず、めでたいと思う気持ちの中には、み仏や神の恵みがありがたく思い、人だけでなく、山や川、また草や木、鳥や獣、およびその世にありとあるすべての存在に、その恵みは日の光りのように注がれていると感じるはずでしょう。

歌人の佐佐木信綱の遺詠に、

ありがたし今日の一日もわが命

めぐみたまへり天と地と人と

という歌があります。天地人は宇宙間に存在する万物のことで、そのめぐみへの感謝が力強く詠われています。

備福山 正智院 駕龍寺住職

権中僧正 富山 義賢



平成の御代も三十年を迎え、また聖上には明年御譲位あそばされる節目の年となりました。私も住職在任十年となり、これからも、皆様とご一緒に、この日本の美しい習慣を絶やすことのないように、さらにこれを促進し助長するように努力を続けたいと願っております。

寒い日々が続きますが、皆様方にはご自愛いただきまして、ご本尊はじめ諸仏諸尊、お大師様の御加護をいただかれつつ、この新しい戊戌の年がより佳き年でありますようご祈念申し上げます、年頭の御挨拶いたします。

南無聖観世音菩薩

南無大師遍照金剛

南無當山鎮守

南無大明神

合掌

謹賀新年

高野山真言宗 駕龍寺

住職 富山 義賢

責任役員	陶浪保夫	総代	小原惣一郎
〃	大熊公夫	〃	藤原公男
檀徒総代	岡本 通	〃	藤原金一
〃	高木久志	〃	中村晃大
〃	那須昭文	〃	藤木達夫
〃	眞鍋兄一	〃	

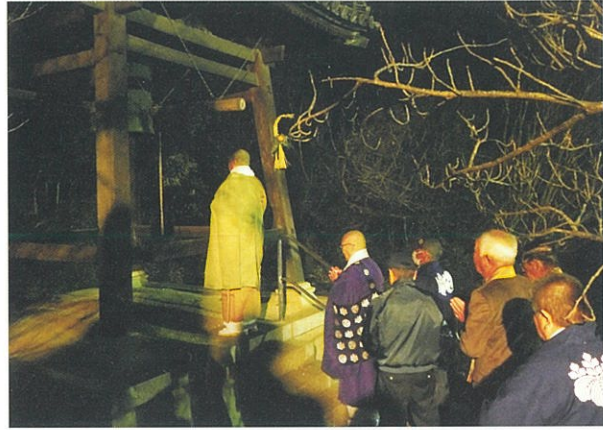
備福山小史 平成二十九年

修正會 一月一日

元日午前零時より、本堂において一年初めの行事である修正會が厳修されました。除夜の鐘を搗きおえた参詣者は、順次本堂に入堂、住職より年頭の挨拶ののち一人一人が一年間の無病息災、開運招福を祈って洒水加持を受けられました。

お加持を受けた後は、お屠蘇を拝戴し縁起物の宝来(千支の切り絵)等を授与されました。

この修正會は新年を迎えるための行事であり、新たな一年の祈願を行います。その方法は、民衆を代表して僧侶が一心に旧年に行つた罪惡の懺悔を行い、その結果として一年の心願成就を願うものです。



節分会 二月三日



立春を翌日に控えた二月三日、午後三時より本堂内陣において、星供曼荼羅を奉祠し、節分法會が厳修されました。約二十名の檀信徒が参詣。各人の北斗七星・十二宮・九曜二十八宿の星をまつることで、除災招福・福寿増長を祈念しました。法會後、吉例豆まきを年男年女の手によりに行い、帰りには恵方巻の接待を受け、寒中のひと時を和やかに過ごしました。



世話人総会 五月十四日

当日、午後四時より役員、総代ならびに各地区の世話役が駕龍寺客殿に参集、平成二十九年の総會が開催されました。

冒頭、住職の御垂示に続き役員挨拶。事業報告、会計報告等を審議、監査報告ののち、全議案を異議なく承認。その他質疑応答ののち、午後五時前散會となりました。



盂蘭盆大施餓鬼会 八月十七日

八月十七日、午前十時より駕龍寺本堂において毎年恒例の盂蘭盆大施餓鬼会が厳修されました。

法会では平成二十九年までに初盆を迎えられた精霊のご家族ご親族をはじめ、多数の檀信徒の皆様が参列され、富山義賢住職導師のもと隣寺の法輪寺田中良全住職、大阪府摂津市の金剛院松政暁道僧正のご出仕により各師の読経の響く中、参列者は焼香して、各々志すところの精霊の増進菩提を祈りました。

法会后お齋として本堂前のテントではそうめんの接待が行われ、総代と檀徒婦人有志の方々の前日からの準備と、当日暑い中での奉仕により、盛大裡に終了しました。

なお、八月十三日夕刻に奉迎された檀信徒各家の先祖代々霊位は十六日までの四日間、住職はじめ寺族の手厚いもてなしを受けられ、十七日夕刻、住職によって密厳浄土に再び奉送されました。



盆棚経

七月三十日～八月十四日

恒例の盆棚経が約二週間に亘って御修行されました。

年々暑さが増す中、住職以下四名の僧侶により期間中、瀬戸内市を皮切りに、岡山市内、浅口市、美星町、高梁市を含め、約七百六十件の檀家宅にお盆の供養に上がりました。

毎年、棚経期間中は各御家庭の皆様、地区世話役の皆様には格別のお心遣いをいただき、暑い中大変お世話になっております。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。



帯江小学校

六年生が来山

十一月十七日

十一月十七日、地元の帯江小学校の六年生二十五名が、郷土の歴史に触れる総合学習の一環「探検・発見・帯江さと」で駕龍寺を訪れました。当日は担当の伊丹先生の引率のもと地域学習の協力者、那須昭文氏(駕龍寺檀徒)、北川小四郎氏とともに駕龍寺を訪れ、住職から寺の歴史や駕龍寺が帯江小学校の元になっていること(明治十三年帯江小学)などの説明を受け、興味深く聞き入っていました。一行は、駕龍寺を後にして次の目的地である一王子神社に向かいました。



酒樽観音大祭 大般若経転読法會 十一月十九日

昨年十一月十九日午前十時より、本堂において恒例行事の酒樽観音大祭大般若転読法會が厳修されました。この行事は収穫の秋を迎え、農作物の実りと食に対する感謝を捧げ、檀信徒の家内安全と厄除け讓災いを祈るために、行われる行事です。

当日は大般若法會の本尊として正面に



当日出仕の総代



御加持



酒樽観音前での御法楽

「般若十六善神」ほんにやじゅうろくぜんじん「高野明神影向図」たかのあけみかみかげむすぶ「弘法大師御影」の三幅の軸が掛けられ、富山住職導師のもと結衆ならびに法縁寺院十口を職衆に、御導師の三禮、表白に続いて職衆が大般若経六百巻を次々に転読しました。その間参列者には大般若経趣分によるお加持が行われ、一人一人

が般若の梵風を受けて、一年の感謝と無病息災を祈りました。

法會後には、この日にしか受けることのできない大般若経のお札と御供物、お接待の赤飯などが配られました。

今年の日程は十一月十八日 日曜日です。皆様お揃いでお詣り下さい。



奉納演舞

奉納御礼

新穀奉納 もち米三十キロ

藤原通博殿 《倉敷市粒浦》

尚、奉献頂きましたお米は、大般若會のお接待の赤飯に使用させて頂きました。謹んで御礼申し上げます。

年末年始のご案内

新年の始まりを 駕龍寺で迎える

新年初詣のご案内

過ぎ行く一年を振り返り、来たるべき新年が素晴らしい年でありますように、あなたらしい一年の出発を。皆様のご参詣、心よりお待ちしております。大晦日から元日にかけて各種法要、御祈願を行います。

除夜の鐘

晦日の午後十一時四十五分、住職のお撞きになる一番鐘より順に、善男善女が鐘を鳴らして心身清浄をお祈り致します。

除夜の鐘待遇

本堂内にて御屠蘇拜戴・吉祥宝来・干支飾り・お供物境内テントにて、御神酒・甘酒の接待

※数に限りがあります。

予めご了承下さい。

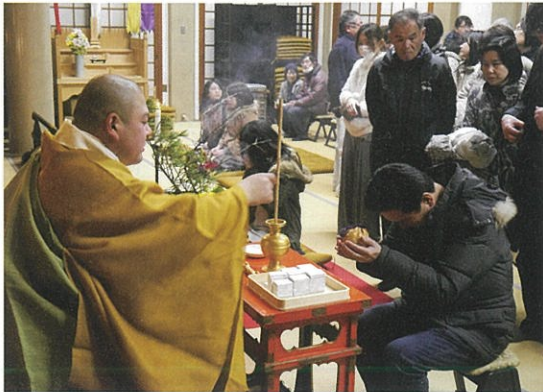
※お問合せは駕龍寺まで

新年初詣・修正会

(しゅしようえ)

除夜の鐘が境内に響き渡る中、午前零時より本堂におきまして「修正会」をお勤め致します。

新しい年を迎え、一年を振り返り思い新たに



参り下さいますよう、皆様のご参詣心よりお待ちしております。

修正会にお参りされた方には、ご本尊御宝前において特別に祈願した法水を灌ぐ、酒水のお加持(心身を清める作法)をお一人お一人にお授け致します。

※本堂へのお参りは大晦日より元日の午前一時三十分まで。

※ご参詣の方が大勢いらっしゃいますので、お越しの際は十分にお気をつけて、まわりの方へのご配慮も併せてお願い致します。

尚、正月三が日の本堂内拝は午前七時開堂、午後四時閉堂とさせていただきます。

ご自由に堂内にお上がりになり、ご焼香、お屠蘇等をお受けください。

(授与品が堂内がない場合は、頒布終了です。)

初観音・浄焚会 (じようほんえ)

初観音のお勤めに引き続き、駕龍寺にお納め頂いた、古い御守・御札・お位牌などを供養し、境内浄焚場にてお焚き上げ致します。

【日時】 一月十七日十時より

【場所】 初観音法会・本堂

浄焚会・境内浄焚場前にて

【受付】 随時受付

※お勤めののち、鏡餅のおさがりのせんざいをお接待いたします



お知らせ

十二月二十八日から一月七日までは年末および年始(松の内)につき、年忌法要や墓前経等の仏事はお休みさせていただきます。(通夜・葬儀についてはこの限りではありません)

お願い

「参与会」にお入りください

お大師さまは今もなお高野山奥之院で永遠の御入定に入っております。その願いはすべての宗派や身分・職業・果ては国境をも越えて生き続けています。弘法大師を尊び敬愛し、信仰する皆様と共に高野山真言宗の更なる発展に、何卒お力添えをたまわりたく、高野山真言宗参与会にご入会下さいませよう懇願申し上げます。皆様方がお大師さまの御加護を受けられ、お幸せでありますように。

高野山真言宗参与会事務局

参与会とは、正式には高野山真言宗参与会といい、総本山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長さまを総裁と仰ぎ、弘法大師(空海)のみ教えを守り弘め、お大師さまの衆生救済のご誓願におこたえすることを目的とする信仰団体です。

●お大師さまと共に広げることの輪、現代の高野聖としてお大師さまのみ教えを広げていくために活動を行っています。会員になれますと、年二回の研修会や、高野山教報の購読、高野山へお参りの折りは各所内拝料無料、参拝記念としてお線香を贈呈致します。

奉納御礼

本年も、御本尊御宝前に新米献穀をはじめ蓮などの献花ならびに季節の農産物、献酒、献菓など多くの篤信の方々に真心のこもった品々を御奉納いただきました。皆様の厚きご信援に心より御礼申し上げます。

龍鬢表黒地銀色七宝模様縁床疊 一式
西田 板谷章二殿 (板谷製畳)

合掌

ご奉仕御礼

駕龍寺の境内美観維持のために、毎月境内奉仕の皆様はじめ、折に触れて個人的に草刈りや伐採に汗を流していただいた方々に心より御礼申し上げます。

合掌

駕龍寺

「伊勢神宮初詣と京の古刹巡拝」の旅のご案内

平成も三十年の大きな節目の年を迎え、駕龍寺では伊勢神宮御垣内特別参拝バスツアーを開催します。

杉木立神路山のふもと、清流五十鈴川のほとり、御神楽を奉納し、白石の御垣内で特別参拝を行い、一緒に戌戌の新年を寿ぎたいと存じます。御垣内特別参拝とは、外宮・内宮の各御正宮にて一般拝所の奥の玉砂利の敷いてある中で神職によるお祓いの後、外玉垣

南御門内まで参進し、拝礼させて頂きます。神宮城内では、神宮会館職員によるご案内があり、御神楽奉納は、神楽殿にて日本の伝統文化の素晴らしさを体感できるまたとない機会です。定員三十名となります。定員になり次第締め切りますので、参加御希望の方は、お早めにお申し込みをお願いいたします。

今回の旅行は、真言宗十八本山めぐりの第二回目を兼ねて行います。一回目よりご参加の方は、お繰り合わせご参加ください。

【日 時】二〇一八年一月二十九日(月)～一月三十日(火)

【定 員】三十名

【旅行代金】三万七千円(大人一名様)

【締切日】二〇一八年一月十七日(水)



▲ 昨年の団参の様子

● 研修会 参与会では、年一回研修を行っております。内容は、受戒、阿字観や法話聴講、勤行、下座行(掃除)御詠歌などです。開催については、毎月二回送られる「高野山教報」のご案内になります。会員の皆さまからは、大変好評を得ている研修です。

● 物故者慰霊碑は、篤いご浄財により建立され、平成十四年十一月十日奥の院において慰霊碑開眼法会が執り行われました。参与会員は、枢義・参与物故者慰霊碑におまつりし永く供養を捧げます。

● 会員になると、高野山真言宗管長(参与会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジを授与致します。また、参与袈裟をつけて高野山にご登山くだされば、諸堂、霊宝館の内拝が無料となり、金剛峯寺に参拝されると、記念品としてお線香を贈呈いたします。月二回発行の「高野山教報」をお届けし、高野山真言宗が発行するパンフレットなど印刷物をその都度お届けします。

● 年会費 一万円
この年会費は、お大師さまのみ教えを一人でも多くの人に知っていただくための広報活動に役立てられています。

お問い合わせ、パンフレットご希望の方は駕龍寺まで
参与会にご入会をお願いします。

開運星祭祈念「星供」

天体の動きは人の営みと密接に関連すると古来より考えられてきました。

密教占星術では「人の営みは、生まれながらに定まる〈本命星〉と毎年巡りくる〈当年星〉のもとにある」と考えられています。〈本命星〉は、生まれた年の干支により七星(貪狼星、巨門星、禄存星、文曲星、廉貞星、武曲星、破軍星)で成り立つ北斗七星のいずれかに定められ一生変わらないとされています。また、〈当年星〉は毎年巡りくる年々の吉凶を左右するとされています。

当山では、年の変わり目の節分と立春の両日星供養が執行されます。星供養は祭壇に北斗七星が描かれた星曼荼羅、その年の諸星、全国から寄せられ本堂でご祈禱をされた開運星祭祈念簿を祀り、星回りの悪い年は悪事災難から免れるように、星回りの善い年はより善い一年となるように祈願します。

祈願をお寄せいただいた皆様にはご家族のこの年の幸いと無事を込め護符が送られます。

本年平成三十年より、檀信徒のみならずをはじめ、広く有縁の皆様除災招福と開運成就をお祈りした「星供御守札」を授与することといたしました。

あなたの今年の星の吉凶を是非ご体験ください。

2月の「星供祈禱会」に祈願をご希望の方は、別紙申込用紙にご記入のうえ事前に郵送等にてお申し込みください。

仏画への誘い

一昨年一月より、月一回お寺で仏画教室を開催しています。様々な仏様のお姿をなぞって描く、簡単な写仏です。

ただ一心に筆を走らせる。仏さまと向き合う時間は、自分自身と向き合う時間でもあります。あつという間の二時間です。ご自身の心にある仏性を見つめてみませんか。毎回十数名の方が参加してくださっています。初めての方ばかりです。ご興味がおありの方は、どうぞお気軽にお問い合わせ、ご参加ください。

日時・毎月一回(不定期) 13時~15時頃
参加費・一、〇〇〇円(材料費別途)
持参物・すずり・墨(墨汁不可)

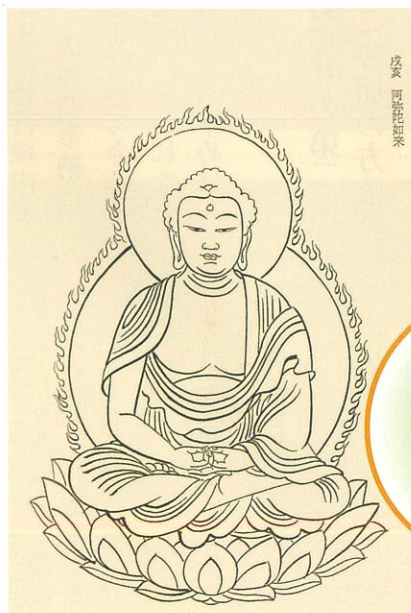


お守り作りのご案内

平成三十年の干支は戌年。戌年の守り本尊は、阿弥陀如来です。この阿弥陀如来をご自分で描いて、ご自分のお守りを作りませんか。下絵をなぞるだけの、簡単な仏画(写仏)です。お姿が完成した後は、一体一体住職が梵字を書き入れ、開眼をして下されます。

上記仏画教室に参加されていない方でも、どなたでもご参加いただけます。お誘いあわせの上、是非お越しください。

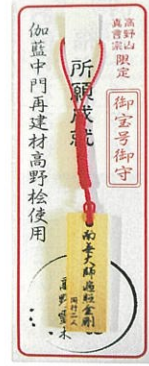
- 日時・一月十八日(金) 13時~15時頃
- 参加費・一、〇〇〇円(お守り作りが初めての方は、材料費別途一、五〇〇円)
- 持参物・すずり・墨(墨汁不可)
- 申し込み締切・一月十四日(日)



戌安 阿弥陀如来

駕龍寺の御守

「御宝号御守」(ごほうごうおまもり)



駕龍寺の御守は、御本尊聖観世音菩薩の尊い御霊徳を宿した御分身です。一月一日より、「御宝号(ごほうごう)御守(おまもり)」を授与します。

御宝号御守は高野山伽藍中門再建の使用材(高野山にて先徳が育成し残してきた森林の高野檜)を蘇生した御守です。

南無大師遍照金剛の文字はお大師様の書より頂いたものです。

この御守を身に着け、皆様と高野山の命との繋がりを感じつつ、あらゆる災厄が断ち切られ幸運が訪れるようお祈りください。

初穂料 五〇〇円

コラム 「仏教のお話」

「だれだい、トイレでとんでもない声を出して歌ってるのは。ひどい声だね、本人は歌ってるつもりだろうが、ヒーヒーと悲鳴みたいじゃないか」

「トイレだけに、黄色い声」

「きたないことをいうね。ところでおまえさん、声のついでに頻伽(びんが)の声ってなんの声か知ってるかい」

「いやだよ、おれをぶたないでくれよ」

「そりゃ、ビンタだ。じゃなくて頻伽ってのはな、

迦陵頻伽(かりょうびんが)のことで、極楽浄土にいとわれる鳥の名だ。その鳴き声は非常に美しいので、仏様の声にたとえられているのだ」

「ふーん、そのビンガって鳥を、ご隠居は極楽で見たことがあるんですかい」

「いや、わしやまだ極楽に行ったことがないから知らんがね」

「知らないのに、よく分かった風なことをいうもんだ」

「エライ言われようだね」

「それで、その極楽ってのは、一体、どこにあるんです？」

「その、なんでも十萬億土にあるって話だ」

「十萬億土っていいますと……？」

「西方(さいほう)の阿弥陀様がいらっしやる浄土だ」

「サイホウのって、うちのやつが裁縫するところ」

「阿弥陀さんがいらっしやるというので……へー、つまらんとこにいらっしやるもんだね」

「これ、バチが当たるぞ。その裁縫じゃない、西の方って書いてサイホウと読むんだ」

「西の方って、どのくらい西の方でさあ、小田原か箱根のあたり……」

「とんでもない、もつとずつと西の方だ」

「ずつと西の方でえと、どのあたり？」

「まあ、あるから心配するな」

「だから、どこにあるか聞いてるんじゃないの」

「いやなやつだな、おまえみたいに、こっちのいうことを素直に受け取らずに聞きたがるやつは、とても極楽なんかじゃいやしい。そういう素直でないやつは、地獄の方だな」

「へえ、地獄ねえ、その地獄ってのは、どこにあるんです？」

「ちゃんとある」

「どこに？」

「そりゃおまえ、つまりその……極楽のとなりにある」

「極楽は？」

「地獄の隣さ」

「地獄は？」

「うるさいね、まったく。おまえみたいにしてこく聞くのがいちばんよくないよ。少しは相手の身にもなれ」

「それをいうなら、しつこく家賃を催促されるこっちの身にもなれ」

極楽は西にもあらで東にも

北(来た)道さがせ 南(みな身)にぞある

※極楽・地獄の間答は、落語「浮世根問」を参考にしました。

訃報

藤木萬平氏(株式会社丸五相談役)

駕龍寺総代 責任役員 藤木萬平氏は去る昨年九月十六日、行年八十六歳を以て逝去。哀悼。即ち葬儀・告別式は九月十九日倉敷市二日市、エヴァホール倉敷に於いて駕龍寺住職導師のもと、脇導師として福山市正光寺住職野田泰洋師を招請し、参列者多数で生前の遺徳が偲ばれ盛葬であった。喪主は妻の淑子刀自。藤木氏は昭和六十二年の就任以来、本業の職務の傍ら三十年余にわたり、当山総代、責任役員を務め、寺を護り、多大な功績があった。戒名は無量心院護山萬祥大居士

藤井繁夫氏

駕龍寺総代、五日市地区世話役の藤井繁夫氏は去る昨年九月二十五日、行年八十四歳を以て逝去。哀悼。即ち葬儀・告別式は九月二十七日、エヴァホール倉敷に於いて富山義賢駕龍寺住職のもと、営まれた。喪主は長男の幹雄氏。藤井氏は平成二十年、当代住職の晋山に伴い正式に総代に就任。以来、住職ならびに寺族の後見、総代会の要として駕龍寺の外護と発展に大きく貢献した。温厚で明るく、真面目な人柄に寺内のみならず地元豊洲地区での信頼も厚く、その逝去が惜しまれてい

年中行事

●修正会 一月一日午前零時

●節分会 二月三日午後一時

●弘法大師正御影供

春季彼岸会・永代経供養

三月十七日午前十時

●孟蘭盆大施餓鬼会

八月十七日午前十時

●秋季彼岸会・永代経供養

九月十七日午前十時

●帯江三十三観音霊場本尊

酒樽観音大祭大般若転読法要

十一月十八日(日)午前十時

●除夜会

十二月三十一日午後十二時四十五分

○鎮守講 毎月一日午前十時

○観音講 毎月十七日午前十時
法話、おとき差し上げます。

○大師講 毎月二十一日午前十時

○奉仕の日(境内清掃)

概ね毎月二十八日午前中

※御供養・御祈祷時受付(要予約)

※いずれの行事にもお誘いあわせ、お気軽に御

参詣ください。

平成三十年年忌繰出表

法事は御命日に、もしくは御命日に遅れないように計画致します。

命日の当日に法事が出来なければ、なるべくそれよりも前に日に行うべきだというしきたりは、「人間はいい加減なものなので、いつでもいいとなると、どんどんおろそかになっていくから、当日にできなかつたり、土曜や日曜に執り行いたい場合は、命日より前にしなさい」と、昔の人は教えてくれています。命日を過ぎてから法事をしたら良くないとか、祟りがあるといういみではありません。だから命日を過ぎていたとしても、法要をしないでおくよりは、遅れてでもした方が供養になるのは確かですから、是非行つてあげてください。

一	周年忌	平成二十九年	逝去
三	回忌	同	二十八年
七	回忌	同	二十四年
十三	回忌	同	十八年
十七	回忌	同	十四年
二十三	回忌	同	八年
二十五	回忌	同	六年
二十七	回忌	同	四年
三十三	回忌	昭和	六十一年
三十七	回忌	同	五十七年
五十	回忌	同	四十四年
七十	回忌	同	二十四年
百	回忌	大正	八年

皆様の疑問質問にお答えします

お便りをお寄せください

福寿海では読者の皆様からの投稿を募集しています。皆様の宗教体験は日常生活で感じたことなどをお寄せください。また『お答えします』のコーナーでは、皆様から寄せられた疑問質問に、住職はじめその道のプロが回答させていただきます。どんな些細な内容でも結構ですので、いろんなご質問をお待ちしています。

《宛先》

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業を明記の上、左記までお送りください。

〒七一〇〇〇四二 岡山県倉敷市二日市六〇〇

高野山真言宗 駕龍寺「福寿海」係

●Eメールの場合は info@karyujip.jp

※採用させていただいた方には駕龍寺より粗品を進呈させていただきます。

慧燈星懸

一年ぶりの寺報「福寿海」をお届け致します▼初春を迎え、皆々様の益々のご多幸を心より祈念申し上げます▼今年もこの寺報で、当寺の行事のご案内や、折々の話を述べさせていただきますと思っておりますので、宜しくお願ひ致します▼さて、世間に目を向けてみますと、日本の社会は、ますます色々なことがめまぐるしく変わっているようです▼特に中高年の方で、この世相の変化についていけないものを感じておられる方は多いのではないのでしょうか▼しかし、こういう時こそ、しっかりと自分の足下を見て歩いてゆきたいものです▼新春とはいえ、厳しい寒さが続いています▼この「寒」の時ほど、物や人の値打ちがよくわかる、といえましよう▼「歳寒松柏(さいかんのしょうはく)」は、松や柏が冬の寒さにめげず、常緑を湛えていることを、立派な人は逆境にあつても節操を変えないことにたとえます▼この寒中、僧侶や信徒には、寒行・寒参り・寒垢離などの修行があります▼僧分は寒中にのどを鍛えてこそ朗々とした声でお経を読み、寒中に漉かれた和紙はたいへん丈夫です▼「寒」は身心の一大道場▼世間の風は冷たく吹いても、気持ちは負けずに、この一年、励みたいものです▼平成三十年が、皆様方にとりまして幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。